

一般社団法人 送電線建設技術研究会 四国支部 会員企業・協力企業一覧

徳島県 阿南緑化有限会社

有限会社井上建設

有限会社開成工業

株式会社SKYTEC

中央電気建設株式会社

株式会社電友社

濱田機械産業

藤川興業有限会社

有限会社山口建設

山本工業有限会社

香川県 株式会社伊藤興業

大字建設株式会社

四国送電工事企業体

四国送電線建設協同組合

有限会社篠宮組

大一電気工業株式会社

有限会社山本組

株式会社四電工

愛媛県 大澤建設工業株式会社

有限会社大高建設

株式会社川村電設

興伸電気建設工業株式会社

有限会社近藤産業

株式会社シゲタ

白石林業有限会社

株式会社曾我部組

有限会社曾我部電設

有限会社高橋林業

有限会社兵頭組

有限会社正木土木

八木建設工業株式会社

高知県 株式会社R・KAIKO

有限会社小椋電気工業

高知電気建設株式会社

株式会社大和

パワーコムエンジニアリング株式会社

株式会社森崎産業

株式会社横山工業

※五十音順

memo

一般社団法人 送電線建設技術研究会
YouTube公式チャンネル

VRドラマ『進路相談室の恋人』

期間限定配信!

2021年5月31日まで



四国電力グループ



一般社団法人 送電線建設技術研究会 四国支部

(製作協力)



四国電力送配電株式会社

TOKUSHIMA



電気をつなぐ ラインマン

一般社団法人 送電線建設技術研究会 四国支部



空の道よ、電気を人へ

大地に道があるように、空にも道がある。

山を越え、谷を渡るその道の名前は「送電線」。

現代文明を支える電気を人々に届けるために

今日も誰かが空の道を守っている。

送電線

発電所で作られた電気を変電所に送り、人々に電気を届けるための道が送電線（鉄塔と電線）です。送電線は高い山を越え、深い谷を渡り、24時間365日休むことなく全国津々浦々に電気を送り続けています。

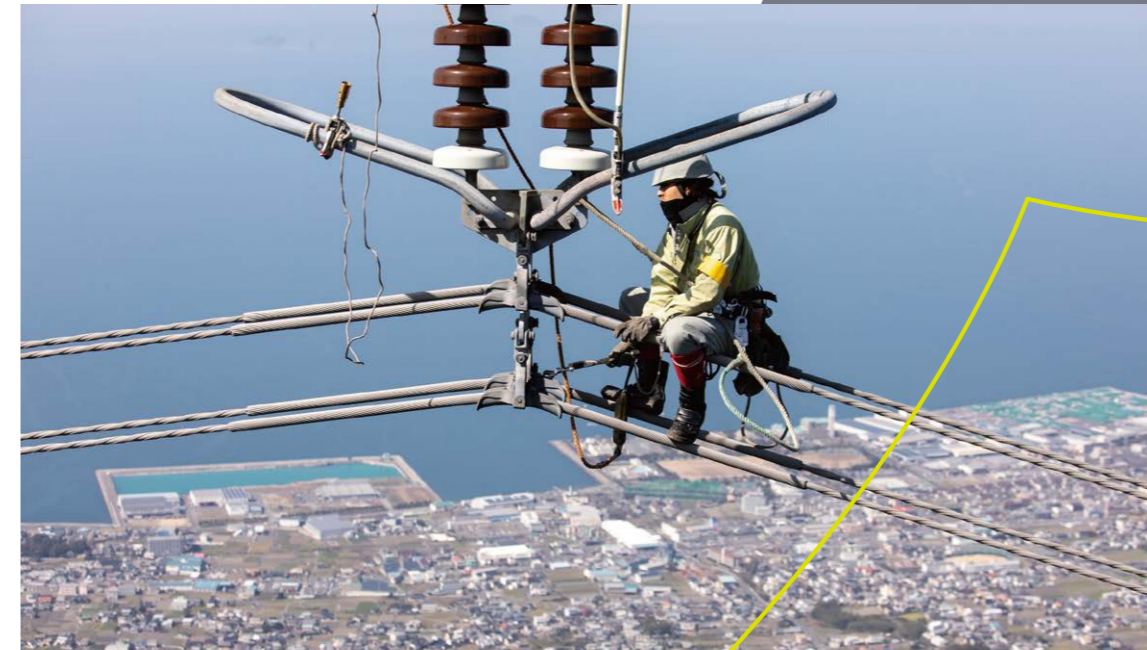
ラインマン

人々の生活を支える電気の通り道である送電線。その建設と点検に関わる仕事をする技術者がラインマンです。教育・訓練と研修によって、大切な電気を送り続けるための高い技術と特別な技能を身に付けています。



ラインマンの仕事 01

空の道をつくる。



鉄塔と鉄塔の間に電線を張る仕事を「架線工事」といいます。
架線工事では、まず細いロープを張ってから、
細いワイヤー、太いワイヤーへと替えていき、
最後に電線へと引き替えます。



01

ヘリコプターやドローンと連携

非常に重たい電線を張る架線工事は、まず鉄塔と鉄塔の間に細いロープを張るところから始まります。この時に活躍するのがヘリコプターやドローンです。



02

センチ単位で調整する技

鉄塔につながれた電線は、そのたるみまできっちり計算されています。長さ数百メートルに及ぶ電線では、たるみも非常に大きくなるのが当たり前。それをセンチ単位で調整する技術を持っているのがラインマンです。



03

地上と連携しての作業

架線工事は地上の延線作業チームと連携して行われます。地上では、直径が2mほどの大きなドラムから電線を延ばし、上空で作業を行うラインマンへと届けています。

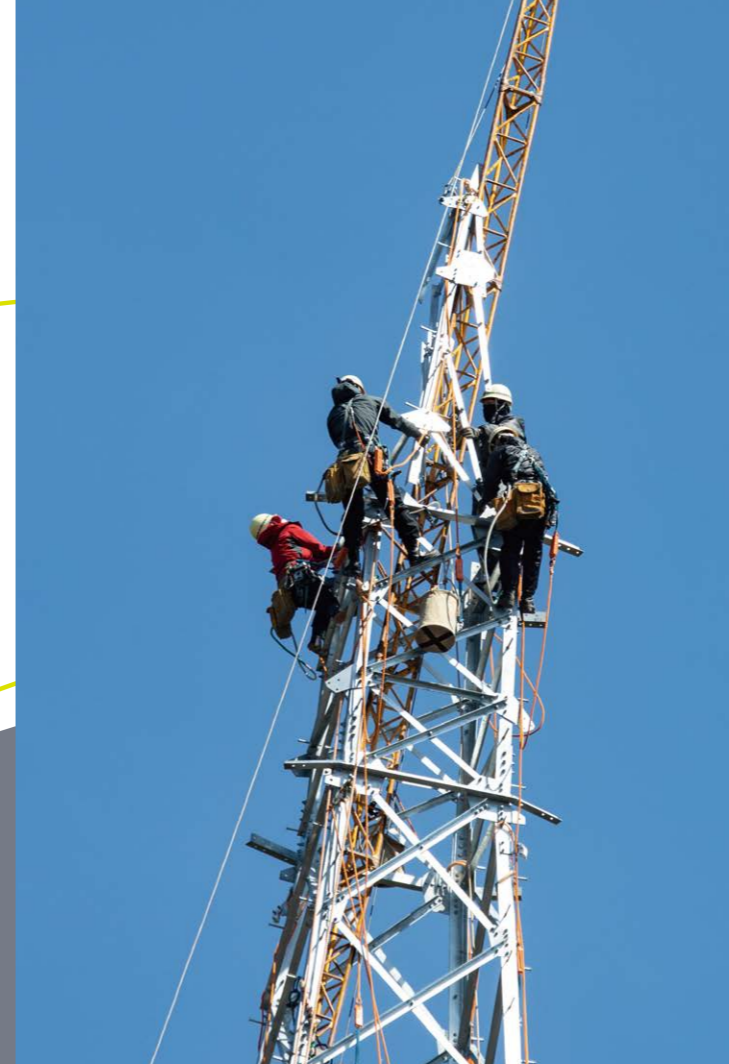
ラインマンの仕事 02

鉄塔をつくる。

鉄塔をつくる仕事を「組立工事」といいます。

平地、潮風にさらされる海岸沿い、険しい山間部など様々な地形に対応しながら、効率よく、安全に工事が進められていきます。

中には高さ100mを超える巨大な鉄塔もあります。



01



場所によって工法を変える

鉄塔の組み立ては、クレーン車を用いる「移動式クレーン工法」が一般的ですが、場所によっては、クライミングクレーン工法や台棒工法を用いることもあります。

02



台棒を手足のように使う

険しい場所では台棒を鉄塔に設置して部材をつり上げる「台棒工法」によって鉄塔を組み立てます。ベテランラインマンになれば、ワイヤーの操作により手足のように台棒を扱います。

03



人の手が鍵となる

クレーンによって運ばれる部材を上空で組み合わせるのはラインマン。鋼材と鋼材をびたりと合わせ、ボルトでゆるみなく固定していきます。ボルトの数は1万本以上になることもあります。

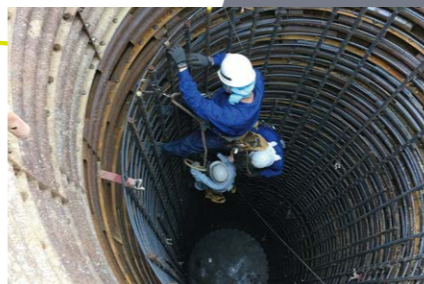
大地に基礎をつくる。



01

いくつもの重機で大地に挑む

鉄塔が建てられる場所は平地ばかりではありません。角度のきつい斜面や岩場など、その場所に応じて重機を使い分けて、鉄塔を支える基礎(土台)の穴を掘削しています。



02

深さ数十メートルになることも

巨大な鉄塔を支えるためには、掘削する穴の深さが数十メートルになります。穴の中に小型の掘削機械を設置して工事を進め、その後、人の手で鉄筋を組み立てていきます。



03

モノレールや索道で資材を運ぶ

自動車が入れない不便な場所に鉄塔を建てる場合は資材の搬入にも工夫が必要です。このような場合はモノレールや索道を設置して、大量の資材を運びこんでいきます。



鉄塔の大きさは100mを超えるものもあります。

この巨大な建造物が、台風や地震でも倒れないように頑丈な土台をつくるのが基礎工事です。

重機を用いて深い穴を掘削し、コンクリートを流し込んで鉄塔の基礎材を大地に固定します。

みんな「はじめて」からスタートした。

1～5年目



道具の扱い方や安全技術などをしっかり身に付ける新人研修。

ラインマンの仕事は高い技術と特別な技能が求められます。まずは新人研修で、その基礎をしっかり身に付けます。道具の扱い方や安全装置の使い方、基礎的な作業方法を学び、十分に訓練を行うので初めての人も安心です。

5～20年目



一通りの技術を身に付ければリーダーとしての資質を磨く勉強会へ

一通りの技術を身につけたら、中堅を対象にした勉強会や会議を経て管理者としての実力を磨きます。現場全体を任せられるリーダーとして実績を積み重ね、ゆくゆくはラインマンとしての最高峰「マスターラインマン」を目指します。

スペシャリストへ



仕事を通じて多くの資格を取得できることも魅力

ラインマンの魅力のひとつは多数の資格を取得できることです。資格を取得することで、仕事の幅がどんどん広がります。卓越した技術と技能、見識を持つ者（およそ上位1%）には、最高峰「マスターラインマン」の称号が贈られます。

子どもの頃から鉄塔の仕事に憧れていた。

ラインマン歴
42歳
年



私は子どもの時から電柱や鉄塔の上で作業をしている人を見るのが好きで、格好いいなと思っていました。中学生の時には四国電力で職場体験させてもらい、その時に「ラインマンになりたい」と決意しました。今、夢が叶って、鉄塔の上で架線の仕事をしています。一通りの仕事を覚え、電線の状態をチェックしたり、古い電線を新しい電線に張り替えたりなど、充実した毎日です。と言っても、初めは高さに慣れるのに苦労しました。憧れの仕事ではあったのですが、実は私は高所恐怖症。最初に鉄塔に昇ったときは足がす

くみました。だけど不思議なことに作業に集中していると恐さを忘れれます。何カ月か働いているうちに高さへの恐怖がなくなってきて、今では鉄塔から見る景色が大好きになっています。

働いていて感じる架線の仕事の良さは、がんばった成果がカタチに残ることです。後から「あの電線は自分が張った」と確認できて、誇らしい気持ちになれます。また普通の人が入れない場所、その素晴らしい景色を見ながら働けることも魅力です。美しい雲海を見ながら作業をしたこともあります。本当にいい気分でした。



中央電気建設株式会社

小西 陸

My favorite item

安全帯

高い場所でも平気なのは、命綱である安全帯があるおかげです。時には自分の体を安全帯に預けて、両手を離して作業をすることもあります。仕事の後は手入れを忘れません。痛んだ部分があれば早めに交換して万全の状態にしています。



ラインマン歴
10年
34歳



気持ちいい眺めの中で仕事できる。

鉄塔の組立・解体、メンテナンスから架線工事まで、幅広い仕事をしています。オールマイティになんでもできるから、関東から九州まで幅広い現場から声がかかり、いろいろな土地で仕事をさせてもらっています。普通の人は見たことがないような各地のすごい景色を見ながら仕事できるのは、やがいのひとつになっています。

私は昔から高い所に昇るのが好きで、高所での仕事に興味を持っていました。ある時、求人でラインマンの仕事のことを知って「働いてみたい!」と思って転職し

たんです。高さ100mを越える鉄塔での仕事もありますが、はっきり言って慣れてしまうと高さは関係なくなります。晴れた日なんかは「今日の眺めは気持ちいい!」と思いながら作業しています。

心に残っているのは、山奥の現場でキャンプをしたことです。食べ物もテント用具もヘリコプターで運んでもらうほどの場所で、周りにいるのはシカやサルだけ。夜は静かだし星がきれいで、忘れられない1日となりました。こんな感じで現場によって雰囲気が違うことも、飽きずに長く仕事を続けられる理由かもしれません。



My favorite item

携帯コンロ

山奥の現場では、当たり前ですけど近所にコンビニなんてありません。昼ご飯はお弁当を持参する人が多いですが、私はコンロを持って行って鍋で暖かいラーメンやうどんを作っています。自然の中で食べるといつもよりおいしく感じます。



株式会社SKYTEC

穂刈 唯史

機械を使いこなして仕事の効率アップ。

ラインマン歴
8年
35歳



実家の仕事を継いで、鉄塔の基礎を作っています。鉄塔の基礎作りとは、言い換えるなら地中にコンクリートの柱を作ること。地盤の状態や鉄塔の規模によって、その柱の形状や大きさ、深さが変わります。

現場では、仕事にかかる前の準備が大事です。例えば道がない山奥では、重機を分解して、モノレールや索道(ロープウェイ)で運びます。そこまでなくても、狭い山道に重機を走らせるために、せり出した木を伐採したり、道の幅を拡げたりするのはよくあることです。その準備のおかげなのですが、周辺に暮らしている

方から「道が通りやすくなった」と感謝されるのが何度かあり、差し入れをいただいたこともあります。現場の近くには地域の方がいる。そのことを常に忘れず、作業のあとの掃除も徹底するように心がけています。

この仕事は、その日の成果が目に見えます。自分の努力や成長が結果に結びつくので、次のやる気につながります。また、機械化が進んでいるので、機械の上手な活用方法を考えるのもおもしろいですね。工夫次第で、ラクに効率よく仕事できるようになります。



My favorite item

耐切創手袋

刃物などで切りにくい、耐久性の高い手袋です。現場ではノコギリやカッターなど刃物を使いますし、コンクリートの角にすれただけでも手を傷つける可能性があります。そういうケガを防ぐために、手袋は欠かせません。



山本工業有限公司

山本 康博

数字で見る四国のラインマン。

18時間

平均の月残業時間

天候などにより乱れる場合がありますが、おおよその現場で計画通りに仕事が進んでいます。

43歳

平均年齢

ラインマンの仕事は安定しており、長く続けることができます。そのおかげで平均年齢は少し高めです。

0件

過去25年間の死亡事故

四国では過去25年間ラインマンの死亡事故はありません。安全を第一として、無理なく仕事を進めています。

15個

取得資格の平均

仕事を通じて多くの資格を取得することができます。資格取得によってキャリアアップを目指せます。

4回

1年間の研修の目安

専門的な研修や講習に参加できる環境が整っています。充実した学びの環境が資格取得に結びついています。

96年

四国最古の鉄塔の年数

1924年(大正13年)に建てられた鉄塔がまだ現役で活躍中。自分の関わった仕事を孫の代まで誇れます。

※四国の架線電気会員企業のデータをもとに作成(2020年3月現在)。

働くことが地域のためになる。

生まれ育った地域への愛着はどんな人にもあると思います。

自分が働くことが、地元の友人や家族、お世話になった人たちの

ためになるなら、そこには大きな意味があります。

ラインマンは、まさしく地域の暮らしを守る仕事。

電気をなくして現代の生活はなにひとつ成り立ちません。

赤ちゃんからお年寄りまで、地域で生きるすべての人の力になる。

これこそ、ラインマンの誇りです。



実家通勤の経済的なメリット



地元で就職すれば、実家から通勤できる機会が多くなります。一人暮らしでは、家賃、光熱費、食費など、かなりの出費が必要です。実家に住みながら働くことで、経済的な余裕が生まれ、余暇の自由度が広がります。

地元で暮らした経験が生きる



初めて就職する時に、初めての土地で働く。2つの「初めて」が重なるとストレスは大きくなります。地元就職なら、暮らしに余計な心配を抱えません。また土地勘や地元への知識を仕事に生かすことができます。

プライベートにも余裕がある



休日に友人たちと遊ぶ場合も、地元に住んでいれば移動時間を気にする必要がありません。どこに出かけるにしても時間にも余裕が生まれます。プライベートが充実することも地元就職のメリットです。